

私学助成署名推進ニュース

全国私私学助成をすすめる会
 (事務局：全国私立学校教職員組合)
 No.24 2020年11月6日(金)

「やっぱり学校は、仲間と学ぶところ」「私学が選べて本当に良かった」 愛知私学：BIGフェスティバル マスコミが報道

推進ニュース23号で報じた「愛知私学：BIGフェスティバル」が翌日の中日新聞と朝日新聞で報じられました。中日新聞は、学費負担の軽減についての高校生の声を中心に、朝日新聞は総合文化祭の様相を中心に報じています。



青空の下、約500人で鳴子踊りの群舞をする高校生たち。長久手市の愛・地球博記念公園で

「高校生は無力じゃない！」
 モリコロパークでビッグフェス開催
 県内の高校生有志がさまざまな活動を発信する「ビッグフェスティバル2020」が三日、長久手市の愛・地球博記念公園（モリコロパーク）であった。五十校の生徒約三百人でつくる実行委員会が主催。大村秀章知事も招待された。メイン企画「希望プロジェクト」では、約三十校の生徒会長らが壇上に立ち、「コロナ禍で私立大への進学が消えた」「家計が心配」という生徒の声を紹介。県が本年度から世帯年収制限付きで私立高の授業料なども無償化したことを歓迎し、新型コロナの影響で学費が払えなくなった生徒を支援する「一億円募金」に、さらに力を入れていくことを宣言した。

2020年11月4日 中日新聞 朝刊

繰り返し開催してきたことが県の支援を生んだ フェス開催

県議会議員の選挙区に対応させて県内39カ所でオータムフェスを開催する中で、全県の結節点として開催するBIGフェス。知事登壇を勝ち取っての開催も何回にも至っています。そしてコロナ禍での今年の開催。しかし、この情勢下での開催に対し、模擬店の出店も含め多く点で県が支援をしてくださったことで開催が実現しました。やはり、こちらの構えが人を動かしています。

高校生はもちろん、父母が元気になった!!

学校で叶わなかった内容を、学校枠を超えて実現させた一般公開の「合同文化祭」。高校生がそのエネルギーを思う存分発揮する行事となりました。ですが、それに負けずに元気になったのが父母でした。

どの県、どの学園においても実出席によるPTAの会合、クラス懇がほとんど開催されていません。また、無理は禁物と父母懇活動、すすめる会での活動も慎重にならざるを得ない情勢です。父母もひとりぼっち状態でした。しかし子どもたちのために何かをしたいという父母の要求に応え、一人では創れないものを学校枠を超えて創り上げる醍醐味がBIGフェスで再生しました。閉会后に舞台下で組んだ円陣での、ここに参加した父母の表情が輝いていました。

2020年11月4日 朝日新聞 朝刊

高校生が交流 500人が群舞

長久手「ビッグフェスティバル」



県内の高校生が交流する祭典「ビッグフェスティバル」が3日、長久手市のモリコロパーク（愛・地球博記念公園）であった。新型コロナウィルスの影響で大会が中止になるなど、活躍する機会を奪われた文化部の生徒らが、日ごろの練習の成果を披露した。主催は、私立高の生徒を中心に結成されたボランティア組織「県高校生フェス

ティバル実行委員会」。生活困窮家庭の支援などを目的に毎年開いているが、コロナ禍の今年は「中高生の輝く場を自らの手で創る」をテーマに掲げた。

各校の生徒や保護者、教員ら約5千人が参加。吹奏楽や和太鼓、ダンスなどの発表があったほか、約500人が学校の枠を超え、「群舞」を披露した。
 (角拓哉)